

軍艦島研究を通して 見えてくる近代 in 唐津

近代を先駆けた三菱・唐津ゆかりの技師達



軍艦島全景・山本シンセイ撮影



長谷川 芳之助 (1855~1912)

唐津藩の重臣の家に生まれる。国内はもとより、米国、ドイツで鉱山学、製鉄技術等を学び、日本初の工学博士となる。帰国後、三菱の鉱山部長を務め、鉱工業の進歩に貢献し、北九州で官営製鉄所(現・新日本製鉄八幡製鉄所)の創設にも寄与した。



曾禰 達蔵 (1852~1937)

唐津藩士の子として江戸に生まれる。現在の東大工学部・工部省工学寮を卒業すると、工部省技師、工部大学校助教授を歴任。明治23年(1890)に三菱に入社し三菱1・2号館の建設に携わる。定年退社後には、慶応義塾大学図書館などを設計。

建築家・芸術工学博士

講演／中村 享一

- 日時／平成29年6月24日(土)14:00～
- 会場／旧大島邸 (唐津市南城内4-23 TEL:0955-73-0423)
- 申込・問合せ／TEL:050-5242-3112 (藤岡)
E-mail:machi8mu@gmail.com

50名様限定
聴講無料

※別途入館料100円
小・中学生50円

※お申込みのない方もご入場はできますが、席に余裕がない場合は、お申込みの方を優先させていただきます。

- 主催／まちはミュージアムの会 ●後援／唐津市

学業優秀、乱暴抜群、悪逆者の標本？
幕末の志士のごとき長谷川芳之助と
人格高潔、真面目一徹、仕事一筋の曾禰達蔵。
唐津が育んだ二つの個性が、
近代国家・日本が形成されていく中、
三菱社で辿った数奇な運命とは？

軍艦島30号棟内部・山本シンセイ撮影

平成27年(2015)に、国際記念物遺跡会議(イコモス)により世界文化遺産に登録された、軍艦島を含む「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」。石炭産業で栄華を極めた軍艦島は、三菱社が島全体と鉱区の権利を買い取り、本格的に石炭の発掘が開始されました。

三菱社に鉱山部長として採用された長谷川芳之助は、岩崎弥太郎に製鉄事業構想を提案しますが、二代目の指導者、弟・岩崎弥之助との確執から志半ばにして三菱社を去りました。もし、長谷川が三菱で製鉄事業を興していたとしたら、現在の三菱や日本近代化の構図が大きく変わっていたのかもしれませんが。

岩崎弥之助は腹心・荘田平五郎の助言により、経営資源を不動産投資に集中し、丸の内の大なる土地に、都心のビジネス街を建設する事業を始めました。ここで曾禰達蔵がジョサイア・コンドルと一緒に、三菱における都市や建築の基盤を築き、後進の建築家や技術者達が、日本に於ける初期の近代建築を生み出すきっかけを作りました。

本講演会では、唐津出身の技師二人が近代日本の形成にどの様な役割を果たしたかを検証します。また、同時期に炭鉱事業を経営した竹内綱、明太郎親子も唐津鉄工所の起業へのつながりの中で触れ、唐津の近代化にも光をあてていきます。

講師プロフィール 中村 享一 Kyoichi Nakamura

1951年長崎市飽之浦生まれ。建築家。芸術工学博士(九州大学)
所属：日本建築学会正会員・Docomomo Japan正会員・産業考古学会正会員 他
受賞：1991年日本建築家協会と長崎県共催の都市コンペで銅賞受賞
1996年世界建築家連合バルセロナ大会で環境問題公募論文が住宅部門で最優秀
2003年福砂屋松ヶ枝店 日本商環境設計家協会優秀賞・グッドデザイン賞受賞
2004年地球環境実験住宅(E-7 project)日本建築家協会環境建築賞受賞

